



近代英国の文学、思想、社会の研究

人文科学系・言語文化学領域

齊藤 美和

教授

SAITO Miwa

博士(文学)(奈良女子大学)

■研究キーワード 英文学, 近代英国の文学・社会・思想, 伝記, 英米詩, Early Modern English Literature

■主な所属学会 日本英文学会, 日本英文学会関西支部, 十七世紀英文学会

■研究者総覧 <https://koto10.nara-wu.ac.jp/profile/ja.ea366f6daef529fc520e17560c007669.html>



研究者総覧

研究概要

初期近代を中心に、イギリスの文学、思想、社会を研究しています。
「フランシス・ベーコンに学ぶ現代処世術」は、研究テーマの一つです。ベーコンはエリザベス一世とジェームズ一世に仕えた宮廷人で大法官の地位にまで上り詰めた人物ですが、それもつかの間、収賄の罪で官職を解かれ、宮廷から身を引くことになりました。彼が生きた時代は、トップ、すなわち君主の不興を買えば、一つ間違えば文字通り処刑台で首が飛ぶ時代でしたので、宮廷は生き残るためには全く隙を見せられない、権謀術数のはりめぐらされた世界であり、宮仕えをする者たちにとって、現実私たちの時代より一層シビアであったと思われます。今日、幾多の処世術本が書店に並びますが、ベーコンの書いた『随筆集』には、人の嫉妬のかわし方から会議の際の座席の割り振り方まで、お手軽なマニュアル本にはない、「人の世」で生き抜くための実利的かつ奥深い知恵が記され、ときに「お互い大変ですね」と声をかけたくるような親近感さえ、感じさせるのです。

【これまでの講義テーマ】

①〈仮面〉と英文学 ②『不思議の国のアリス』とナンセンス詩 ③ケルトの妖精とイエイツ ④ヴィクトリア朝の女性作家を読む ⑤エンブレムと形而上詩 ⑥蛇女の物語とジェンダー ⑦ラファエロ前派の詩と絵画 ⑧Romantic Childと『秘密の花園』 など



アピールポイント

研究事例

- ・科学研究費助成事業 基盤研究(C), 2019年04月～2022年03月, 19K00447, 近代英国における女の〈終活〉研究, 研究代表者: 本研究は、近代英国において人々が日常生活のなかで実際にどのような姿勢で死と対峙したかを明らかにするために、個別具体的に生活に密着した資料を研究の対象とするという立場に基づき、特に当時の女性が日々、どのように死と向き合い備えたかを探るべく、彼女たちが死をとりわけ強く意識したであろう人生の二つのステージ、すなわち〈出産〉と〈夫との死別〉に焦点を合わせ、妊婦や寡婦が残した助言書や遺言、祈りや瞑想の記録、回顧録等を中心に調査し、加えて出産に関わるメタファーに着目することにより、女性特有の〈終活〉のあり方を明らかにした。
- ・科学研究費助成事業 基盤研究(C), 2013年04月～2016年03月, 25370284, 近代英国における女性の〈偉人伝〉研究, 研究代表者: 近代英国において、伝記は社会的・政治的・宗教的に重要な役割を担う文学ジャンルであった。本研究は、女性の伝記、特に偉人伝に焦点を合わせた。女性の伝記研究といえばこれまで日記や書簡といった私的な自伝的書き物の調査が中心であったが、本研究では、伝記の中でも特に公的・社会的性質の強い偉人伝を中心に据え、公に出版することを目的に書かれた伝記を研究の対象とし、女の一生がどのように記録され、讀まれたかを、伝記的小説、頌詩、聖人伝の3つの観点から考察することによって、伝記という文学ジャンルに占める女性の位置を明らかにした。
- ・科学研究費助成事業 基盤研究(C), 2010年～2012年, 22520244, キリスト教世界における子供の殉教研究-近代英国を中心に-, 研究代表者: 本研究は、近代英国を中心に西洋における殉教観を、特に子どもに着目して多角的に探ることを目的とし、児童書における殉教者たちの描かれ方を文学に限らず伝記、宗教書、教育書など幅広い領域の文献に追い、何が殉教者に対する熱狂を生み、また幼少期の読者にどのような影響を与えたかを考察することを通じて、殉教という死のスタイルが西洋人の心を捉え続け、いかにその精神形成に深く関わってきたかを明らかにした。
- ・科学研究費助成事業 基盤研究(C), 2002年～2003年, 14510550, ヨーロッパの自殺観, 研究分担者: 本研究の目的はヨーロッパ社会が自殺に対して、いかなる態度をとったかを、初期近代を中心に検証することである。